

令和7年度阿倍野区区政会議福祉・健康づくり部会（R7.7.30）でのご意見と対応一覧

- 〔分類〕
①当年度（7年度）において対応
②8年度に対応予定
③8年度では対応できないが、今後引き続き検討
④その他

番号	年月	会議	意見内容（要約） （公表）	対応（回答） （公表）	分類
1	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【熱中症予防啓発について】 健康づくりと言うと体力、運動に目が行きがちだが、体力・健康という観点からは、夏の暑い時期には特に運動だけでなく水分補給がとても大切だ。最近の暑さの中で、特に高齢の方々はコップでお水を飲むのが難しい場合もあるようだ。吸い飲みを使うほどではなくても、太いストローや短めのストローを使うと、楽に水分を摂ることができることをまだ知らない方も多いようだ。あべのんのイラストなどを使って分かりやすい案内もよいのではないか。 （金光委員） 水分補給だけでなく、クーラーの使用などを含めた温度や体温の調節も併せて気を付けることが大切だ。それぞれの方に合った飲み方や対策について、身近な人がお伝えしながら、みんなで健康を守っていければと思う。 （波多野委員）	高齢の方は、家族が身近にいれば気づきやアドバイスもしやすいですが、高齢者どうして暮らしていると気づきにくいことがあることも考えられます。 区役所では健康相談の際や運動イベント（例：あべのウォーク）で、保健師が水分補給の大切さを丁寧に説明し、イベントの際には適度な休憩もとるよう心がけています。また、社会福祉協議会が地域で行う「なにわ元氣塾」などでも保健師が参加し、健康に関するお話をしています。 特に夏場は水分不足が熱中症につながることも多いので、保健師からしっかり呼びかけを行っています。 今回、頂いたご意見も踏まえて、今後さらに多くの場面で、飲み方も含めて周知に努めてまいります。	①
2	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【逆ヘルプマークなどについて】 地域で支え合う取組で、「逆ヘルプマーク」や、「優しいお店ですよマーク」があることを最近知った。 ヘルプマークは、赤地に白ハートと十字がついているマーク。 逆ヘルプマークは、青地に白いハートと手のひらのマーク。逆ヘルプマークを持っていたら、私お手伝いをしますよという合図になっており、「優しいお店マーク」は緑のハートに白い手のひらのマークでお店に掲示していたりする。そういうマークがあることを広めることで地域で支え合う取組の前進になると思う。 マークをどこでもらえるのか知らない人が多い。私の周りでもヘルプマークのことは知っていても、ヘルプマークの配布場所を知らなかったりするので、そうしたことを周知することで、地域の人みんなで支え合う地域づくりを進めていく一歩になるのではないかと。 （金光委員） 逆ヘルプマークについて調べていただいて、広報紙に載せてはどうか。 （波多野委員）	「逆ヘルプマーク」や「優しいお店ですよマーク」の情報についてはこれまで知らなかったので調査して検討してまいります。 例として区内でこうした取組をされている店舗などを掲載した阿倍野区のmapを作成して配布することで、取組についての啓発にもなり、展開が広がっていくのではないかと思います。	③
3	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【広報の効果や手応えについて】 昨年度の部会での意見を踏まえて、広報あべのの工夫した内容を拝見したが、一覧で見させてもらったら、色のコントラストや見やすさなど考えていると感じた。 広報あべのの記事の中で、どの程度地域福祉についての記事が目立つのかというのがあるかと思うが、努力しやってきた手応えはどんなものなのか。職員はどう感じているのか。 （今井委員） 地域福祉コーディネーターの方は、地域の方からいろいろな相談がされて、民生委員もコーディネーターの方と情報を提供しあっていて助かっている。各地域にコーディネーターがいることを広報紙で周知して、地域のみなさんに知っていただくきっかけになればよい。 （波多野委員） なにわ元氣塾など大切なことに取り組まれていることを、ふだんは何となく見過ごしてる部分もあるので、これからも続けて周知していくということと視覚的に効果的な形で掲載してはどうか。 （波多野委員）	昨年の部会で、広報あべのの記事についてもっと強化してはとご意見をいただき、紙面の見やすい工夫をしたり、「地域福祉コーディネーターにご相談ください」という記事については、地域福祉コーディネーターの活動内容をわかりやすく説明したり、地域ごとの担当者名も紹介しています。活動について知らない方も多いかと思いますが、知るきっかけになる記事になったと思います。 健康づくりのイベント、食育月間などのお知らせは対象とする年齢層が広いと、全戸配布の広報紙に掲載し、区民の皆さまに周知することが有効と考えています。 「あべの健幸☆アップ講座」の参加者募集は、広報紙だけでなく行政オンラインシステムも活用し、若い世代にも情報が届くよう工夫しています。この講座は日中に開催されるため、日中、仕事をされていない方のほうが参加しやすいと考えられます。今年度は「なにわ元氣塾」に参加されている方は「あべの健幸☆アップ講座」に興味を持っていたのではないかと考え、保健師が「なにわ元氣塾」でお話をする際に講座案内を行いました。その結果、昨年度の講座参加者は定員30名に対し15名でしたが、令和7年度は24名と増加しており、広報活動の効果が感じられています。今後も、地域の皆さまから様々なご意見をいただきながら、よりたくさんの方に健康づくりの情報を届けていきたいと思っています。	①
4	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【自転車マナーについて】 高齢者が安心して町を歩けるためには、体操教室やウォーキングなどの活動の継続、交通ルールや自転車利用のマナー周知（例えばヘルメット着用や罰則の広報）、事故の多い場所での警告標語掲示などが効果的だ。キャッチコピーによる啓発も有効であり、地域全体で思いやりの心を持ち、お互いに注意し合うことが大切だ。広報紙などで安全運転や注意喚起の情報発信を継続してほしい。 （井上委員） 高齢者が安心して歩けるまちづくりのために、歩行者と自転車利用者（特に若い世代）との速度の違いから安全面に不安があるため、お互いに配慮し合えるようなキャッチコピーや啓発活動が必要だと思う。 自転車が歩行者を気にせず高速で走るため危険を感じることが多く、道路環境や対策を何かできないかと考えている。自転車のスピード違反は規定されていないが、ヘルメット着用や罰則制度が強化されていることを多くの人が十分に知らないため、広報などで詳しく説明し周知してほしい。 （波多野委員） 若い世代が遅刻しそうになり、自転車で急いで危険なスピードを出すことが多いと、安全を促す標語として「君が縮めた1秒は誰かの一生分を縮めるよ」のような言葉を提案した。 （金光委員） 弊害のないところに標語を貼ったり、広報紙に掲載したりするなどの対応が考えられる。 （井上委員）	区広報紙の令和7年7月号で「ヘルメットをかぶろう」というPR記事を掲載し、8月号で地域みまもり隊のメンバーが「自転車マナーについて」一面にPR記事を掲載しております。 また、区民ギャラリーでは区内の団体が「ヘルメットをかぶろう」というPRをし、区の広報掲示板には、自転車マナーに関する子どもたちの絵画ポスターを掲示して啓発しています。 今後も引き続きみなさまのご意見を反映したうえで区役所内で連携しながら広報紙やホームページ、SNSなどさまざまな媒体により効果的に情報発信をしてまいります。 高齢者の交通安全についてもPRしていけたらよいと思います。	①
5	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【電車で優先座席などの周知啓発について】 電車に乗っていて、この頃外国人の方が多いですが、外国人の方は速やかに席を譲ってくれて非常に心地よく感じるが、日本人の場合、席を譲ってくれることがほとんどないと思う。 電車に乗っていても体の不自由な方にお席をお譲りくださいとか、通りいっぺんのことをマイクで言っているが全然聞いていないと思う。電車の中に「あなたその態度反省してみたら」とか、もう少し人に訴えるような取組というのが、せめてこちらからでもできたらいいなと感じる。 （井上委員） シルバーシートに座っている若い方もいるし、ご高齢の方が立たれて、もじもじなさってる方も確かに見受けられる。これは鉄道事業者に伝えて、シルバーシートは何歳以上という啓発を強化できないか。 一方で子どもが席を譲ったときに、お年寄りの方が、私は譲っていませんという方もいるが、子どもが席を譲ってくれるときは素直に「ありがとうございます」というふうに座ってあげたらいい。 （波多野委員）	機会を捉えて鉄道事業者にご意見をお伝えすると共に、区役所としても区民の方向けの啓発を検討してまいります。	④

- [分類]
①当年度(7年度)において対応
②8年度に対応予定
③8年度では対応できないが、今後引き続き検討
④その他

番号	年月	会議	意見内容（要約） （公表）	対応（回答） （公表）	分類
6	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【区内の企業・事業所等に勤務する方に地域福祉活動へ参加いただく方法について】 阿倍野の事業所に勤務している方は、仕事が終わったらすぐに家に帰る。地域福祉活動をやるとすれば、自分の住んでいる地域でやることかと思うが、勤務地である阿倍野区の枠組みの中で入っていただくとか、参加をしていただく方法を考えることが要るのかと思う。 地域の福祉活動を考えると、地域全体のつながりが一番肝腎になってくる。広報ももちろんあるが、そういうつながりが希薄になってきて、町会の加入率を見ても少しずつ力が弱まってきている中、地域でつながりをどう強めていくかが、町会全体が直面している問題だ。 （今井委員） 阿倍野区に事業所がある福祉事業所で働いている。施設内だけでの避難訓練はやっているが、スタッフは地域の小学校の避難訓練とかいっしょにできたらいいのになんて言っていたり、事業所の上の人たちは、地域に関わりたいそうだが、やり方が分からないと言っていたりした。区役所から呼びかけさえすれば、参加してくる事業所はあるのではないかと。 （金光委員） 地域とのかを考えると、小学校の学校区単位で物事を考えていく。阪神・淡路大震災のときに、私の母は、私の卒業した母校に逃げた。今、神戸は特にそうだが、小学校を中心とした学区の中で、様々なことをやっている。小学校の学校区を活用すれば、解決していけるのではないかと。 （白石委員） 何事においても協力的にするというのは、地域にとって大切なことなので、そういう方法を考えて、働いている時間の中で、協働でいっしょにすることも考えていくのもいいかもしれない。 （波多野委員）	勤務地である阿倍野区で地域福祉活動に参加いただく方法について、地域の枠組みを活用、区役所からの働きかけ、学校区の活用、勤務時間内での協働などご提案いただきありがとうございます。 現在、徘徊される方がおられたときに探す協力をするを事業所単位で登録していただいて、事業所の方が区内を回られる際に、迷っているお年寄りなどがいないか発見に協力していただく「あべのあんしんステーション」という取組がされています。 また、区内の企業・事業所等には、あべのカーニバル、スポーツフェスタ、アベノキッズサマープロジェクト、健康展、食育祭、つながりフェスタなど区役所が開催するイベントにご参画いただいております。	①
7	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【見守り活動について】 区社協の「みまもり隊」の活動も一生懸命していただいており、民生委員も見守り活動の中で、徘徊しそうな方には電話して、住所と部屋番号を言えるか確かめて見守っている。気になる方については少しでも声かけをして見守っていくというのも一つの方法かと思う。 （波多野委員） 今後、地域ぐるみで助け合っていくというのが福祉としては一つの方法だ。 （波多野委員）	区社会福祉協議会の見守り相談室や地域包括支援センターが地域や団体の方々に参加してもらって、ロールプレイング方式の「見守り訓練」を定期的に行っており、実践に沿った形で訓練をされています。	①
8	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【参加者へのアンケートについて】 アンケートを参加者へ実施した場合、数値目標が高くても、実際に参加した人は好意的な回答が多く、良い結果が出やすい。以前のように無作為抽出ではないため、数値が上がると思う。公平性の面では疑問が残る。 （家永委員） 参加したからこそ辛口コメントがあるかもしれないので、私はそれでいいと思う。 （金光委員） アンケートには、辛辣な意見や「ここを改善してほしい」といった要望も一定数含まれている。したがって、アンケートが全て良い評価であるとは限らない。アンケート結果が100%満足のいくものばかりとは言えない。アンケートは、全てにおいて万能ではないが、多様な声を拾い上げる有効な手段である。 （波多野委員） 新しいやり方を採用する以上、結果は実際にやってみなければ分からない。確率も上昇するだろう。ただし、その変化を誇示するだけでなく、8割・9割と達成した後は何をめざすのかを考えることが重要である。数値だけでなく、事業全体がうまく機能しているかどうかを見極め、その上で今後どのように対応していくかを考えるべきだ。まずは実行し、その結果を受けて、来年以降に検討すればよい。 （今井委員） 今年はその取組でいいと思う。 （井上委員）	これまで阿倍野区では、運営方針の指標として区民アンケート（標本調査）を実施し、その結果を活用してきました。今年度は住民基本台帳から1,300名を無作為抽出しアンケートを実施し指標としますが、事業参加者を対象とした全数調査へ移行する方針です。今後は各イベントや事業毎に参加者へ直接アンケートを実施し、より幅広いご意見を収集したいと考えています。また、子育てや健康づくりなどテーマごとに対象層が異なるイベントでも意見収集に工夫を凝らし、あべのカーニバルのような大きなイベントでも積極的にアンケートを行う予定です。 区民アンケートのような標本調査では興味のない方も回答いただくため、その内容に弊害が生じることもあります。一方で、特定の事業参加者に限定してアンケートを取れば、関心が高い分、率直な意見や厳しい指摘も得られると考えております。 アンケートの目標値に関しては、どの数値が算出されるか現状では不明なため、実際の数値を確認した上で、目標値を必要に応じて適切なものに修正し、より高い目標設定も検討しながら、柔軟に対応していきたいと考えております。	②
9	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【アンケートのご意見について】 アンケートは極めて貴重なものであり、どの会議や研修でも実施されている。その結果によって方針を変更することも多々ある。アンケートには「満足・不満足」だけでなく、自由意見を記載できる項目も多い。辛辣な意見も肯定的な意見も含めて幅広く集めることが、今後の方針決定の一助となるのではないかと。 （波多野委員） 数値として表れるものは「点」であり、特定の日や限定された範囲に限られるものである。一方、アンケートはある程度期間を設定できる。点と線の関係に例えると、数値はあくまで「点」であることを踏まえて判断すべきである。それが定性的評価である。 （白石委員） アンケートの結果を文章化することも一つの方法である。たとえば満足度が何パーセントであったか、また、それに対してどのような意見が寄せられたかを記載することで、参加者の声を反映できる。しかし、アンケート結果だけに頼るのではなく、賛否両論のコメントを併記する方法も有効だと思う。 （波多野委員） テキストマイニングという、言語を分析する手法が存在する。数値的な側面と質的な側面の双方から分析を行う点が特徴である。 （白石委員） アンケートの結果を単に何パーセントと表すのではなく、項目ごとに具体的な意見を記載する方法もある。そうすることで、多様な意見やその意味がより明確になる可能性がある。時間がかかることも想定されるが、明確化につながると考える。 （波多野委員）	アンケート手法や分析について、いただいたご意見を含めて、どのような進め方が最善であるか、今後検討を重ねてまいります。	②
10	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【地域福祉計画の数値目標設定について】 数値目標を設定するのなら、せめて50%とか設定してほしい。 低い数値目標が並んでいるよりは、一つずつの取組目標の説明が載っているほうが値打ちがあると思う。 （家永委員）	大阪市の地域福祉基本計画では、数値目標は設定しておらず、取り組む目標を掲げて実現に向けてめざしますとされていますが、区の地域福祉計画については、区将来ビジョンに連なる計画のため数値目標を設定しており、令和7年度は45%を目標に進めてきました。今回数値目標について見直すこととなりましたので、年度ごとの計測方法は検討し取り組んでまいります。	②

- [分類]
①当年度(7年度)において対応
②8年度に対応予定
③8年度では対応できないが、今後引き続き検討
④その他

番号	年月	会議	意見内容（要約） （公表）	対応（回答） （公表）	分類
11	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【広報の工夫について】 広報紙は全戸に配布されており、あらゆる世代が目を通すはずである。SNS世代の若い親たちも広報紙を閲覧している。カラフルな紙面になった点について、小学校1年生と幼稚園年長の甥と姪には、広報紙に掲載されていたすごろくは非常に人気があった。 ぬりえが含まれていると親が抜き取り使用できる。これはSNS世代の親の関心を引く一つのきっかけとなる。ぬりえは高齢者施設でも人気があり、幅広い世代に注目される要素であるため、紙面のどこかにぬりえを設けてほしい。 （金光委員） 目を引く方法の一つとしてぬりえがある。また、子どもたちや高齢者を含め、多くの人がクイズに興味を持ち、挑戦したくなる傾向がある。ぬりえやクイズなどを掲載することは関心を引く手法である。 自転車の利用禁止や注意点など、伝えたい情報を巧みにぬりえやクイズの中に盛り込むのもいい案だ。 （波多野委員） 広報紙を端から端まで読む人は少ないと思う。。漫画など自分の関心のある掲載物から読む人もいる。楽しい連載企画など、ひとつでも続きを読みたいと思わせる内容を押さえることや、辛口な内容を適度に散りばめることで、広報紙の価値がさらに高まる。 （井上委員） 区長が表紙にのっているなど身近な人が掲載されていると、非常にインパクトが強い。やはり何かインパクトのある内容にすべきだ。ただ単にあべのんが掲載されているだけでなく、あべのんごとに何らかの設定や注意点を設け、そこに意味やインパクトを持たせるなどの工夫も有効と考える。 （波多野委員） 広報紙は昔と比べてカラフルになり、ずいぶん見やすくなった。以前は、四角い紙面に文字ばかりで興味が持てず、読むのをやめることが多かったが、現在は見やすく作られている。長年阿倍野区にいたので実感している。 （家永委員）	広報紙の工夫として、子育て世代にも向けて遊びごろを取り入れて、昨年度10月号であべのんを使ったSDGsすごろくを大きく掲載し啓発につなげました。 ぬりえの掲載については、子育て世代だけでなく高齢者施設でも人気が高いなど、世代を超えたコミュニケーションのきっかけとなると感じます。今後も、紙面作成において、ぬりえやクイズなど参加型の企画を盛り込むことや連載企画、インパクトのある紙面づくりなど、より多くの方の関心を引き、楽しんでいただける工夫を検討し、効果的な情報発信をすすめてまいります。	①
12	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【転入者に対する行政情報や地域活動情報などの発信について】 広報あべのの発行が毎月楽しみでずと言おうと思ってきた。端から端までも見ている。私たちの年代とか家庭には、ちょっと関係ない記事の内容もあるが、近所の方にお知らせして、いっしょに参加しようと声かけはやっている。 「誰もが自分らしく幸せに暮らし続けたいまち」となっているが、みなさんが引っ越して来られた際、住民票などの手続きをされるときに、資料は渡しているのか。 （稲森委員）	阿倍野区に転入された方に、住民登録担当で転入パックというのをお配りしています。くらしの便利帳や防災マップのほか広報あべの、ごみの収集日一覧など、他にも暮らしに役立つ情報がたくさん入っています。	①
13	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【食事サービスとふれあい喫茶について報告】 去年の部会で、男性もぜひ食事サービスを手伝いに行ってくださいという話があった。 私は手伝いは行っていないが見学に行った。予約制で食べられなかった。 ふれあい喫茶にも顔を出して、地域のコーディネーター中心に20～30人単位の人たちで喫茶をしておられた。当日は70食準備して、食べに来られたのが半分ぐらいで、あとは宅配。地域のネットワークで頑張っている人が大勢いるんだと改めて思った。 当日厨房に入れなかったのは残念だが、一つの連合だけでも大勢の人たちが関わっていて、ほとんど毎週みたいな感じで黙々とやってる、それが地域を支える力かなというふうにも改めて思った。 （今井委員） 食事サービスやふれあい喫茶など、いろいろな事業があるが、地域事情によって事前申し込みがいる場合や当日参加が可能な場合もある。流動的な部分については、ちらしなどに詳細を記載して広報してあげるのが良い。 （波多野委員）	食事サービスへ見学へ行っていただいたご報告ありがとうございます。衛生管理などの制度上、お手伝いいただくのにも事前予約が必要ですが、またぜひご予約のうえお手伝いいただけましたら、この場などでご報告いただけますとありがたく思います。 区役所1階のまちづくりセンターでは、各地域の広報支援を行っています。 また、区社会福祉協議会が生活支援体制整備事業として各地域の集いの場マップを作成しており、区役所内に設置しています。地域で開催されている食事サービス事業やふれあい喫茶、百歳体操など開催日や開催場所参加条件なども掲載したマップですので、より多くの方に見いただけたらと思います。	①
14	R7.7.30	第1回福祉・健康づくり部会	【防災・防犯にかかる地域での見守りやつながり事例について】 安全なまちと言われているが、近くで通り魔事件や薬物関連の事件があった。そうした情報を知らない地域の人も多いため、地域の見守りや注意喚起が必要だと感じている。 帰宅時に規制線が張られており、不思議に思っていたところ、斧で頭を傷つけられる事件があったことを知った。 （稲森委員） 子どもたちの安全のため、役所には危険な場所を調査・注意喚起してほしい。また、怪しい車などを見かけた場合は警察へ連絡して見回りを依頼すべきだ。阿倍野は安全だと思いがちだが、油断せず注意が必要だ。 振込詐欺などの怪しい電話番号は、スマホで調べると詐欺番号かどうか分かる方法があると知った。 （波多野委員） 阿倍野で、町会長や防災リーダーなど78人によるグループLINEを運用し、詐欺電話や防災訓練情報を共有している。また、月1回の夜間地域パトロールでは参加状況や写真をLINEやインスタで発信し、地域住民が情報を確認できるようにしている。防災以外にもイベントの写真なども共有し、地域での交流を図っている。 （稲森委員） 阿倍野区は地域の見守りとかも、すごくしっかりしてくれている。年配の方が子どもたちの安全を見守ってくれており、やはり温かい地域だと実感できる。 （金光委員）	大阪府警察から配信されている安まちメールの内容や、防犯、交通安全に関する情報などを阿倍野区役所のX(旧ツイッター)より配信しております。また青色防犯パトロールカーでの地域巡回も実施しており、事件や事故に遭遇した際は警察に通報しております。特殊詐欺に関しては、被害防止のキャンペーンや、地域会館を中心に防犯出前講座など阿倍野警察署と連携して実施しております。引き続き様々な媒体を利用した情報配信や、区民の方への啓発活動を実施してまいります。	①